

開会の言葉

千葉大学医学部長の三木でございます。本日は、「令和6年度 献体の集い」にご参加いただき、誠にありがとうございます。

この「献体の集い」は、献体に興味があるけれど情報が少なくて敷居が高いなあと思っている市民の皆様と、既に千葉白菊会に入会されている会員の皆様双方が楽しめるようなイベントとして、例年開催していた千葉白菊会総会に代わり、開催するものです。

千葉大学医学部では、これまで長い間、崇高な志と決意を持つ多くの市民の皆様から献体して頂いたお身体により、医学部の授業として解剖教育が実施されてきました。さらに、千葉大学では平成22年（2010年）にクリニカルアナトミーラボ「CAL」という全国屈指の設備の整った施設を立ち上げております。CALでは医学部学生だけでなく、大学を離れて地域の病院で働く外科医が日々進歩する手術の勉強ができるようにしており、週末になると千葉県内はもちろんのこと、全国から多くの外科医がCALを訪れております。

一方、令和2年初頭に端を発する新型コロナウイルスによる世界的なパンデミックにより、社会全般における人の外出や接触が制限されてしまいました。千葉白菊会会員による口コミなどの勧誘の機会も減少したと考えられ、献体登録希望者が大きく減る結果となってしまいました。

いまや献体無くして医学教育・研究は成り立たないといっても過言ではなく、このような献体登録希望者の減少は千葉大学医学研究院・医学部が対応すべき喫緊の課題となりました。

このため、「献体の集い」では、「献体」という崇高な篤志行為の社会への浸透と普及定着を図り、さらに既に千葉大学に献体登録を行っている方の交流の場としても活用し、市民の皆様の「献体へのモチベーション」を維持する一助となればと考えております。

本日は、第一部では、千葉白菊会会長のお話、本学の献体登録の流れのご紹介、そして「献体が支える日本の医療」と題して 鈴木崇根 環境生命医学 准教授からお話いたします。

休憩を挟んだのち、第二部では、馬場 隆之 眼科学 教授の特別講演「高齢者に多い目の病気」をお送りいたします。

限られた時間での開催となりますが、盛りだくさんの内容となっております。ご来場の皆様にとって、有意義な機会となることをお祈りして、私の開会のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。